

第43回
企画展

資料から見る

徳島県立

保育専門学院の

歴史

入場無料

【展示期間】

1月24日^{（土）}～4月22日^{（日）}

【展示時間】

午前9時30分～午後5時 徳島県立文書館 展示室

【休館日】

毎週月曜日 毎年度3休館日（4月29日・5月6日・5月13日）

【開催期間】

2月5日（日）、3月18日（日）

午後1時30分～午後3時

徳島県立文書館 講堂室



文化の森総合公園 徳島県立文書館

TOKUSHIMA PREFECTURAL ARCHIVES

ごあいさつ

徳島県立文芸館では年間4回の「切れ目のない紙」を行っています。そのうち1回は、編集した公文書の中からテーマを決めて題ををしています。今回は昭和28年に設立され、平成28年にその歴史に幕を下ろした徳島県立保育専門学校の史料から、その多岐にわたった役割について見ることにします。

昭和22年に児童福祉法が制定されて以来、新しい社会の変化の中において、すべての子どもの健全な発達、福祉の積極的な増進という趣旨に沿い、様々な施策が展開されてきました。徳島では昭和36年より徳島県立保育専門学校において保育士の育成が本格的にスタートしました。5ヶ月遅れて同年に附属保育所も創設（昭和44年に廃止）され、実務に基づく理論研究と保育技術の向上が図られてきました。卒業された方々は、現在も県内各地の保育所や社会福祉施設の現場で活躍中であり、すでに一線を退かれた方々もそれぞれの立場からボランティアなどで地域社会に貢献されています。

平成18年、多くの人材を保育の現場、福祉施設等に送り出し積極的役割を担った保育専門学校ですが、社会の変化、制度の変革等の中でその役割を終えることになりました。しかし、創立以来積み上げてきた保育の実践や研究、さらに県立機関として果たした数々の記録資料として残されています。今後、徳島の保育、社会福祉に関わる人々にとって参考となる貴重な過去の実践記録であり、意志決定の記録です。保育専門学校はなくなりましたが、徳島県の保育制度の発展に大きく寄与した存在として、その歴史や実績はこれからも大切に引き継がれていくべきものと考えます。

ご承知のとおり、多様化した現代社会の中で、保育をはじめとした社会福祉の現場では課題が山積しています。そうした課題とどう向き合い解決していくのか、おびき強い取り組みが進められています。公文書等の様々な歴史資料から保育や社会福祉のこれまでの歩みを振り返ることで、明日を展望する機会になることを願っています。

なお、今回の展示開催にあたり、徳島県立保育専門学校同窓会の皆様には数割のご協力をいただきました。本稿ながら厚くお礼を申し上げます。

平成24年1月24日

徳島県立文芸館長 結城孝典

太平洋戦争が終わり、復員によって人々が日本に戻ってくる。第一次ベビーブームといわれる時期が訪れた。戦前期昭和2年から24年まで日本で生まれる子どもは「団塊の世代」と呼ばれ、年間500万人以上生まれた。一方、昭和22年12月12日「すべて国民は、男婦が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない」と定めた児童福祉法が公布された。養護者には保育所が定められており、22年8月には、養護施設内の保育所22施設が認可されている。たくさん子どもを健やかに育成することは、国の急務であった。

しかし、法律ができて施設ができて、同時にそこで働く保育（現保育士）養成施設に集めるには時間が必要だった。保育の資格は24年3月の児童福祉法施行規則により認定制度や試験による分掌が定まったが、今後の人材養成をふまえて保育士養成所の要件も設定された。施設においては、5年頃から保育士養成所を作る機運が生まれ、25年3月20日に千葉県習志野市習志野(現習志野)の船橋川土手下に、元香取高等学校の校舎を母が買い取り改装して養護施設保育専門学院を開校した。ほぼ同時に同県保原市を開校し、次は隣接可能な保原市成施設ができた。

昭和27年代後半、高度経済成長による好景気で専攻財も回復すると、元々老朽化していた施設の移転が検討され、またはほとんど建物もない船橋市城東町への移転が決まり、28年12月に移転している。しかし、寄附舎・附属保育所の移転は決まらず、保育所での実習は同県町へ送ることとなった。

昭和38年船橋女子短期大学（現船橋文化大学）に保育科、翌年同県女子短期大学（現 西園大学）に幼児福祉科ができると、早くも保育専門学院廃止の声が上がりがちめた。保育専門学院は同県

保育所と寄附舎の城東町への移転を求めているが、寄附舎のみの移転が認められ、附属保育所は44年2月に廃止となった。併せて、高額の保育料などで代行することとなった。

昭和39年には保育コースの他に、施設コースを作り、福祉施設（身体障害者施設・知的障害者施設・老人施設等）の人材育成にも力を入れ始める。元々学生を中心に様々なボランティア活動に参加をしていたが、32年4月には県内にボランティアグループ協学会が結成され、社会への貢献活動がもっと盛んになっており、保育専門学院の存在意義を強くアピールすることになった。

昭和39年に鳴門教育大学が開学すると、県民での保育士養成課程は県内で満たされているとして、保育専門学院廃止の声が大きくなり始める。全国的にも大学・短大による保育士養成課程の整備が進み、専攻学校である私立の保育士養成機関の廃止の声は強まってきていた。そうした流れに抗しきれず、ついに平成6年3月保育専門学院は廃止を定める。

しかし、少子化になっているとはいえ核家族化・女性の社会進出が急速に進んでいる現在では、保育士の仕事は社会を支える重要な職種であることに変わりはない。社会福祉の視点を忘れない専門的保育士養成の必要はますます増しているといえる。



昭和38 船橋児童養育記念植樹

徳島県立保育専門学院の設立

徳島県立保育専門学院が誕生したのは、「社会福祉手帳法」や「児童福祉法」が制定され、我が国における児童福祉が大きく前進した昭和26年（1951）のことである。

この年の3月28日に「徳島県立保育専門学院設置に関する条例」が公布（同年4月1日施行）され、各支庁保健所南宮後（海部郡市）に徳島県立保育専門学院が開設されることとなった。

開設当時の定員は1学年20名で標準学費は2年、授業科目は高校・旧制中・高等学校卒業、もしくは児童福祉施設で2年以上児童の保育に就事した経験を持つ等の18歳以上の女子に限られていた。

最初の校舎は本島平屋建て、香美高校の旧校舎を県が買収して、国の補助を受けて創設したものである。ただ、当時は設備補償も十分行えないなど施設面の不備もあったようだが、これも次第に改善されていった。また、徳島大学学芸学部や医学部の教授・助教授を講師に招いて専門分野からの講義を受けるなど、授業内容は充実したものであった。

開院式が挙行されたのは同年の7月7日で、第一期生20名が入学する。30月26日には県専修施設として厚生大臣の認定を受けている。ちなみに、この時点での厚生省認定保育養成施設は公立・私立・短期大学をふくめて、全国で26施設であった。12月12日には徳島県立保育専門学院附属保育所が開設され、翌年3月28日には保育専門学院・海部郡保育所と県立養老院・身体障害者福祉所の合同移転式が挙行される。こうして県内に数多くの保育・保育士を送り出していく徳島県立保育専門学院の歴史がスタートする。



厚生省認定第4号（昭和26年12月28日）徳島県立保育専門学院創立式の式目録の複製に作成した時の白文書。



開院当時の校舎風景



第一期生入学時の風景（昭和27年10月）行き先は西川・香取方面。前列左の他、保野町や母子寮も訪問している。

保育学院附属保育所の開設

昭和28年12月13日、当時院内唯一の前立保育所として徳島県立保育専門学校附属保育所が開設された。定員は30名で場所は保育専門学校と一体となっており、開設当初は通所可能な地域の幼児が通っていた。物資が不足しがちなこの時代、園庭粉塵などの環境改善が幼児の栄養状態の改善に大きく役立っていた。27年から学費生の保育実習がスタート。28年に高等官と厚生大臣の視察を受けたことは、保育専門学校・附属保育所開設当りの一大イベントとなった。

昭和30年代になると通所地の幼児も通うようになり、定員超過の傾向を示すようになった。このころから保護者との連携のための各種プログラムの編成、障害を持つ子どもとの交流会、卒業のパラソルスに留意した給食献立書の作成・発表などの取り組みが次々と行われていった。

こうして誕生した附属保育所は、昭和48年(1973)3月に廃止されるまでの17年間に、卒業した総数226名の幼児たちの思いと共に、貴重な歴史を積み重ねていくことになる。



附属保育所の給食献立カード



附属保育所保育日誌



保育風景

徳島県立保育専門学院の移転

元々香南高等学校の校舎を手直しして開校した保育専門学院の校舎は老朽化が進み、教育施設として十分でないところも目立っていた。『徳島県誌編纂会誌』によれば昭和28年12月議会で毎年定款予算の一項目として、保育専門学院の新築移転予算が含まれている。

この当時、徳島県は昭和20年代後半から続いていた厳しい財政運営から脱却し、好景気に乗って新築費確保計画を押し進めようとしており、社会福祉施設の実現にも力を入れていた。あまの学園や徳島学院の増設費や、阿波国徳島学院の改築もこの時期に同時に打われている。

徳島市城東町に建築された校舎へは昭和28年12月に移転をし、1月から授業を開始している。音楽室・調理実習室・図画室など最新式の設備であり、入学定員を20人に増やすが、志願者はさらにそれを上回っていた。前期保育所は、同時期にそのまま廃されたためまふ人の負担が軽減し、実習の学校生が通うこととなった。



新築の徳島県立保育専門学院



音楽室

保育所・保育師合同・こども館・ボランティア活動

保母（保育士）養成の専門施設である保育専門学校は、どうしても社会との接点が高くなりがちであった。昭和28年12月、保育専門学院の落成を広く知ってもらうための阿波小学校を借りて文化祭を行う。さらに、徳島市城東町への移転を記念して、昭和29年1月にパレードと第1回の保護者が行われた。高新しい保育専門学院の施設を近隣にお披露出する機会ともなり、その翌は秋に毎年行われた保護者会につながっていく。昭和29年から30年にかけては、継続的に保母組合会を親善の名古屋ホールやつばきみや百貨店の会場を借りてさらに広く一般への働きかけを行っている。

昭和29年、毎週土曜日の午後訪問の子ども館を学生のボランティアで開かる「こども館」が組織化された。近隣とのコミュニケーションを強めると共に、学生に保育技術を学ばせるものであった。地域の人を巻き込んだ組織作りを継続していくことは難しく、実習1年の活動で幕を閉じたが特筆すべき活動である。

こうした積極的な社会との接点づくりは、学生のボランティアへの参加につながっている。昭和29年には学院内にボランティアグループ「青年会」が組織され、学生を中心に定期・不定期に社会福祉施設・児童施設・障害者施設・保育所などへ組織だったボランティア活動が行われ、県内外から数々の表彰を受けている。社会を支える福祉の観点を持った人材を数多く輩出してきたのである。



こども館

年表

昭和22年(1947)12月	短大創設決定
23年6月9日	徳島県内の22の教育関係者が認可される。
24年4月5日	製造技術養成所として短大者協議会を決議し、昭和25年までに100名製造技術者の育成を行う。
24年6月1日	第1回製造技術試験が実施される。
26年2月20日	徳島県立短大専門学局設置委員報告書が決定。
26年7月7日	開校式挙行。第一回入学式が実施。
26年11月7日	短大史を編纂として学生大会に報告を受ける。(同時に音楽・美術科と長寿専門学校設置委員報告書も決定し、開校式を行う。
26年12月13日	第一回入学式(27名)。
26年8月26日	真田が閉学。短大。
27年2月20日	学友会である若草会が設立
27年8月22日	長寿専門学校認可決定
28年4月	「学友会」制定
28年12月1日	徳島県立徳島小中学校教育にて文化祭を開催。
29年11月3日	創立1周年記念式典を挙行。
29年1月31日	徳島県立徳島小中教育文化祭が短大主催で開催される。
29年4月	徳島女子短期大学に保健科開設。翌年、徳島女子短期大学に歯保健教育科開設。
29年5月21日	徳島県立短大専門学局の設置・開校が中止され、徳島県立徳島専門学校に設置および実用に関する事項が決定される。
29年6月4日	新校舎竣工式が行われる。
29年12月24日	徳島市短大時代の校舎に移転。
30年1月7日	新校舎にて授業開始。
30年1月30日	第1回製造所を再開する。
30年1月28日	学費等を必要により決定する。
30年2月25日	短大専門学局について協議会で新校舎問題につき意見が表明。
30年2月25日	同校舎にあった徳島県立徳島専門学校が徳島教育館を閉校。
30年3月23日	宮田舎「ハッパル舎」が竣工
30年4月12日	短大のコース・施設コースを設定
30年5月22日	長寿専門学校内にこども園を開設。
30年4月1日	ボランティアグループ若草会が設立。
30年4月1日	徳島教育大学が開学。
30年10月22日	若草ボランティアグループが、県のグループ表彰を受ける。その翌年への表彰を受ける。
30年4月1日	各科を改正し使用書取士掲載する。(短大側・協会側)
平成2年(1990)4月11日	初めて男子学生が入学。
平成30年(2018)3月	短大となる。



学友会発起書



授業中



保津湯(阿波踊り)

圖書資料一覧

No.	書 名	年 代	価 値
京都府立総合資料館蔵書			
1	明治26年開校百年誌	昭和26年(1951)	1,200,000,000
2	明治27年京都府立専門学校開校誌	昭和27年(1952)	1,200,000,000
3	明治33年開校50周年記念誌	昭和28年(1953)	1,200,000,000,000
4	明治34年開校51周年記念誌	昭和29年(1954)	1,200,000,000
5	明治39年開校56周年誌	平成11年(1999)	100,000,000
6	明治42年開校59周年誌	平成13年(2001)	
7	明治43年開校60周年記念誌(2000年の記録)	平成16年(2004)	
8	学園誌	昭和33年(1958)	100,000,000
9	こころの歴史	昭和33年(1958)	1,200,000,000
10	京都府立総合資料館開校50周年のあゆみ(アルバム)	平成13年(2001)	100,000,000
京都府立総合資料館蔵書			
11	京都府立総合資料館蔵書(明治30年代)		
12	京都府立総合資料館蔵書		100,000,000
13	京都府立総合資料館蔵書		
14	アリス文学会資料		
15	阿波踊り保存会資料		
16	阿波踊り保存会資料		
京都府立総合資料館蔵書			
17	京都府立総合資料館蔵書	昭和27年(1952)～	1,200,000,000
18	京都府立総合資料館蔵書	昭和28年(1953)～	1,200,000,000
19	京都府立総合資料館蔵書	昭和29年(1954)	1,200,000,000
20	京都府立総合資料館蔵書	昭和30年(1955)	1,200,000,000
21	京都府立総合資料館蔵書		1,200,000,000
22	京都府立総合資料館蔵書		
京都府立総合資料館蔵書			
23	こころの歴史(中絶)とこころの歴史(中絶)	昭和33年(1958)	100,000,000
24	文庫		
25	阿波踊り保存会資料	昭和33年(1958)	100,000,000
26	阿波踊り保存会資料	昭和33年(1958)	100,000,000
27	京都府立総合資料館蔵書(京都府立総合資料館蔵書)	昭和33年(1958)	100,000,000
28	平成7年開校50周年記念誌(京都府立総合資料館蔵書)	平成7年(1995)	100,000,000
京都府立総合資料館蔵書			
29	阿波踊り保存会資料		1,200,000,000
30	阿波踊り保存会資料		

※本館蔵書の詳細情報は、本館ウェブサイトをご覧ください。

お問い合わせ

資料から見る 徳島県立徳島府立専門学校の歴史

平成27年10月現在

編集・発行 徳島県立文庫

〒770-8501 徳島県徳島市西町1-1-1
電話 087-822-5700

印刷 徳島府立版社センター

〒770-8501 徳島県徳島市西町1-1-1
電話 087-822-5700